

スキル科目

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
研究倫理特論	研究と実践の倫理	2	原 塑	1	水曜5限
西洋古典文化特論	西洋古典文化への招待	2	荻原 理	2	水曜5限
人文社会科学研究Ⅰ	The Otaku Culture: Media, Industries, and Fandom ①	2	KOPYLOVA OLGA	1	金曜3限
人文社会科学研究Ⅱ	The Otaku Culture: Media, Industries, and Fandom ②	2	KOPYLOVA OLGA	2	金曜3限
英語研究論文作成法Ⅰ	Advanced Academic Writing in English I	2	STEPHEN HALE	1	水曜3限
英語研究論文作成法Ⅱ	Advanced Academic Writing in English II	2	STEPHEN HALE	2	水曜3限
日本語研究論文作成法Ⅰ	アカデミックライティングの基礎	2	高橋 亜紀子	1	火曜2限
日本語研究論文作成法Ⅱ	アカデミックライティングの書き方	2	高橋 亜紀子	2	火曜2限
日本語理解表現スキルⅠ	読解力と口頭表現能力の改善	2	小河原 義朗	1	火曜5限
日本語理解表現スキルⅡ	読解力と口頭表現能力の改善	2	小河原 義朗	2	火曜5限
日本語口頭表現スキルⅠ	日本語でやりとりする力を伸ばす	2	島崎 薫	1	水曜2限
日本語口頭表現スキルⅡ	プレゼンテーションスキルを伸ばす	2	島崎 薫	2	水曜2限
日本語・日本文化論特論Ⅰ	Japanese Popular and Consumer Culture from Edo to the 1930s	2	KOPYLOVA OLGA	1	木曜4限
日本語・日本文化論特論Ⅱ	Japanese Popular and Consumer Culture from WWII to the late 20th Century	2	KOPYLOVA OLGA	2	木曜4限
キャリア設計演習	キャリア・イメージを作る	2	猪股 歳之	2	木曜3限
アーカイブズ学研究演習	アーカイブズ学研究法	2	加藤 諭	1	木曜2限

スキル科目

アーカイブズ学特論	歴史研究とアーカイブズ学	2	加藤 諭	2	木曜2限
デジタルアーカイブ特論	デジタルアーカイブの基礎と活用	2	田村 光平	2	木曜4限

科目名：研究倫理特論

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：原 塑、阿部 恒之、浜田 宏、坂井 信之、辻本 昌弘、小泉 政利、中西 太郎

コード：LM13501、科目ナンバリング：LAL-OAR509J、使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：研究と実践の倫理

2・授業の目的と概要：科学研究は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、他方、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、人びとを誤った仕方でも導いたりすることもあります。そのため、研究に従事する人々(大学生を含みます)は、倫理的・手続き的に正しい仕方で行なう責任を負っています。特に、人文社会科学では、実験・質問紙調査・フィールドワーク・聞き取り調査・歴史資料・インターネット情報の収集など様々な手法で研究が行なわれるため、多様な倫理的問題に対処しなければなりません。この授業では、研究倫理と公正な研究

3. 学習の到達目標：研究倫理と公正な研究について理解し、その理解に基づいて、研究を実践できるようになることが、この授業の到達目標です。より具体的な到達目標は以下の通りです。

1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深めること。
2. 実験・調査参加者や、その他の関与者の権利を尊重する必要性、そのために考慮すべき事項や手続きを理解し、その知識に基づいた研究活動を行なうこと。
3. 責任ある仕方で行なう研究を実施するために研究者が遵守すべき様々な規範と、その規範を遵守すべき理由を理解した上で、その規範を遵守すること。

4. 授業の内容・方法と進捗予定：

この科目は、オンライン、非同期授業(主としてオンデマンド型遠隔授業)として実施します。

授業内容は以下の通りです。

- 第1回:イントロダクション(担当:原塑)
- 第2回:人を対象とした医学系研究における倫理(担当:坂井信之)
- 第3回:心理学実験における倫理(担当:坂井信之)
- 第4回:質問紙調査研究の実践と倫理(担当:浜田宏)
- 第5回:研究倫理を踏まえた質問紙調査法改善の動向(担当:浜田宏)
- 第6回:フィールドワークにおける倫理の基本原則(担当:辻本昌弘)
- 第7回:フィールドワークにおける倫理の実践的問題(担当:辻本昌弘)
- 第8回:聞き取り調査の実践と倫理の諸問題(担当:中西太郎)
- 第9回:著作権・商標・特許等の問題について(担当:阿部恒之)
- 第10回:研究不正の防止と対応(担当:小泉政利)
- 第11回:人文学・社会科学分野における盗用(担当:原塑)
- 第12回:共同研究とオーサiership(担当:原塑)
- 第13回:ピア・レビューと利益相反(担当:原塑)
- 第14回:人文学・社会科学分野における研究の質と研究公正性との関係(担当:原塑)
- 第15回:人文学・社会科学の学問特性と研究不正(担当:原塑)

5. 成績評価方法：平常点 30%、e-ラーニングの受講 20%、レポート 50%

6. 教科書および参考書：指定された教科書はありません。参考書は授業時に教えます。

7. 授業時間外学習：講義内容について十分、復習を行ってください。授業内容について独自に調べ、理解を深めた上で、それをレポートとしてまとめていただきます。また、公正な研究について、e-ラーニングを受講する必要があります。e-ラーニングの受講方法については、初回の授業で指示します。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：西洋古典文化特論

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：荻原 理

コード：LM23501, **科目ナンバリング：**LAL-0AR510J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋古典文化への招待

2・授業の目的と概要：古代ギリシャ・ローマの文化について基本的な事柄を学び、西洋古典古代の世界に馴染む（その知識は様々な場面で役立つはずである）。歴史、言語、哲学、宗教、諸芸術（文学・演劇・美術）の重要事項を学ぶ。また、西洋古代文化が後代に与えた影響や、日本でのその受容にも若干触れる。

3. 学習の到達目標：西洋古典文化に馴染み、最重要事項について説明できるようになる。西洋文化の今後の研究に活かせるようになる。

4. 授業の内容・方法と進捗予定：

講義形式だが、積極的に質問してもらいたい。

最後 2 回ほどで、希望者によるプレゼンも行なう。プレゼンを行わない参加者には学期末レポートを提出してもらう。

参加者の関心を尊重して内容を調整したい。

1. イントロ
2. ギリシャ・ローマの歴史 (1)
3. ギリシャ・ローマの歴史 (2)
4. ギリシャ語とラテン語
5. ギリシャ・ローマの哲学と宗教 (1)
6. ギリシャ・ローマの哲学と宗教 (2)
7. ギリシャ・ローマの哲学と宗教 (3)
8. ギリシャ・ローマの文学と演劇 (1)
9. ギリシャ・ローマの文学と演劇 (2)
10. ギリシャ・ローマの文学と演劇 (3)
11. ギリシャ・ローマの美術 (1)
12. ギリシャ・ローマの美術 (2)
13. 西洋古典文化の後代への影響
14. プレゼンテーション
15. プレゼンテーション

講義とは別に、毎回出す読書課題（たとえば、ホメロス『イリアス』全 24 巻を毎週 2 巻ずつ読み進めるなど）について感想を交換する。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション または 学期末レポート

6. 教科書および参考書：授業中に指定する

7. 授業時間外学習：読書課題（たとえば、ホメロス『イリアス』全 24 巻を毎週 2 巻ずつ読み進めるなど）。授業の内容の復習。プレゼンテーションまたは学期末レポートの準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

受講にあたり、あらかじめ学んでおかなければならないことは特にない。

科目名：人文社会科学研究Ⅰ

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：KOPYLOVA O LGA

コード：LM15301, **科目ナンバリング：**LAL-0AR511J, **使用言語：**使用言語は英語です（日本語での説明も可）

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：The Otaku Culture: Media, Industries, and Fandom ①

2・授業の目的と概要：本授業は日本におけるポピュラー・カルチャーとファン・カルチャー（オタク文化）の相互関係を説明する。具体的に言えば、オタクの根本的な価値観、興味及び指向、そしてそれに応じたコンテンツの分類を解説した上で、創造産業と消費者の相互影響を明らかにする。各々の創造産業の事情と戦略、コンテンツと物語内容の関係性、表現メディアの特徴、ファン活動と消費パターンといった幅広いテーマが取り上げられ、受講者が様々なメディアやそれに関連するサブカルチャーの特徴について知ることができる。皆さんがこの授業によって自分の研究において活

3. 学習の到達目標：——オタク市場に関わる主な表現メディアの歴史を把握し、メディアの生産、流布と消費の特徴、あるいはメディアの相互関係についての知識を有する。

——日本のオタク文化及びファンの消費行動の特徴、それに関連する主な概念を知り、他の国におけるファン・カルチャーとの共通点あるいは類似点を見いだせる。

——日本のポピュラー作品を多面的かつ包括的に解説し、様々な観点から評価できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Course introduction; what is 'otaku' ?
2. The many faces of otaku I: A history of fan practices in Japan
3. A brief history of fujoshi and BL
4. The many faces of otaku II: Fandom criticized from outside and within
5. Movie screening: Densha Otoko (The Train Man, 2005)
6. Different types of fan engagement and fan creativity
7. Different types of fan engagement and fan creativity. 2.5D culture
8. 2.5-jigen practices: 2.5 stage plays/musicals
9. 2.5-jigen practices: Anime (contents) tourism
10. Group presentations: Contents tourism plans and experiences
11. 2.5-jigen practices: Cosplay
12. 2.5-jigen practices: Voice acting in the Japanese popular media today
13. 2.5-jigen practices: The history of voice acting in the Japanese popular media
14. Game centers as sakariba
15. J-Horror: History, main themes and tropes of the genre
16. Movie screening: One Cut of The Dead (2017)

（講義構成は変更することがあります）

（the lecture content may be subject to change）

5. 成績評価方法：成績評価は、次の方法と割合で行う：

出席（15%）、

課題（85%）： テキストに基づく課題 30% + リアクションペーパー30% + プレゼンテーション 10% + 期末課題 15%
課題は重要！

出席=1、遠隔での参加（特別の理由がない限り）=0.5

6. 教科書および参考書：No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

7. 授業時間外学習：1 週間に 3 時間程度の準備学習（予習・復習等）が必要となる。

復習①（1 時間程度）：ビデオ上映・講義の後リアクション・ペーパーを作成し提出すること

復習②（2-5 時間程度）：論文や一次資料に基づく課題

復習③（1 時間程度）：講義の後、スライドを再確認すること

予習（2-3 時間程度）：短いプレゼンテーションの作成

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

If you have any questions regarding the course, feel free to contact me via the following email:

kopylova.olga.d4@tohoku.ac.jp

You can also find me in my office (building C13, 827) on Mon. ~Fri. 8:30 am-17.30 pm.

私の主な連絡先：

kopylova.olga.d4@tohoku.ac.jp

科目名：人文社会科学研究Ⅱ

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LM25301, **科目ナンバリング：**LAL-0AR512J, **使用言語：**使用言語は英語です（日本語での説明も可）

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：The Otaku Culture: Media, Industries, and Fandom ②

2・授業の目的と概要：本授業は日本におけるポピュラー・カルチャーとファン・カルチャー（オタク文化）の相互関係を説明する。具体的に言えば、オタクの根本的な価値観、興味及び指向、そしてそれに応じたコンテンツの分類を解説した上で、創造産業と消費者の相互影響を明らかにする。各々の創造産業の事情と戦略、コンテンツと物語内容の関係性、表現メディアの特徴、ファン活動と消費パターンといった幅広いテーマが取り上げられ、受講者が様々なメディアやそれに関連するサブカルチャーの特徴について知ることができる。皆さんがこの授業によって自分の研究において活

3. 学習の到達目標：——オタク市場に関わる主な表現メディアの歴史を把握し、メディアの生産、流布と消費の特徴、あるいはメディアの相互関係についての知識を有する。

——日本のオタク文化及びファンの消費行動の特徴、それに関連する主な概念を知り、他の国におけるファン・カルチャーとの共通点あるいは類似点を見いだせる。

——日本のポピュラー作品を多面的かつ包括的に解説し、様々な観点から評価できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Course introduction; popular media and otaku markets
2. What is media mix? Creative industries and transmedia franchises
3. A brief history of Japanese video games
4. Adventure novels and video games
5. Presentations: Introducing your favourite franchises
6. Idols, celebrities, and promotional agencies I: Tarento
7. Idols, celebrities, and promotional agencies II: Idols
8. Korean waves in Japan
9. Asian TV Drama: Translations, localizations, remakes
10. Anime industry: How anime is made
11. Anime industry today: Problems and changes
12. Animated TV series screening: Shirobako (2014-15)
13. Manga industry: Who is involved in manga production?
14. TV program screening: Manben: Behind the Scenes of Manga with Urasawa Naoki (2015-23)
15. Manga industry in the 21 century
(講義構成は変更することがあります)
(the lecture content may be subject to change)

5. 成績評価方法：成績評価は、次の方法と割合で行う：

出席 (15%)

課題 (85%)： テキストに基づく課題 30% + リアクションペーパー45% + プレゼンテーション 10%

課題は重要！

出席=1、遠隔での参加（特別の理由がない限り）=0.5

6. 教科書および参考書：No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

7. 授業時間外学習：1 週間に 3 時間程度の準備学習（予習・復習等）が必要となる。

復習①（1 時間程度）：ビデオ上映・講義の後リアクション・ペーパーを作成し提出すること

復習②（2-5 時間程度）：論文や一次資料に基づく課題

復習③（1 時間程度）：講義の後、スライドを再確認すること

予習（2-3 時間程度）：短いプレゼンテーションの作成

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

If you have any questions regarding the course, feel free to contact me via the following email:

kopylova.olga.d4@tohoku.ac.jp

You can also find me in my office (building C13, 827) on Mon. ~Fri. 8:30 am-17.30 pm.

私の主な連絡先：

kopylova.olga.d4@tohoku.ac.jp

科目名：英語研究論文作成法Ⅰ

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：STEPHEN HALE

コード：LM13301, **科目ナンバリング：**LAL-OAR514E, **使用言語：**英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Advanced Academic Writing in English I

2・授業の目的と概要：This course is an introduction to the process of academic writing in English. The foremost objective is to enable students to gain practical skills and confidence for communicating effectively in formal English writing. To this end, students will learn an

3. 学習の到達目標：As a result of completing this course, students will be able to:

- 1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for formal academic essays in English.
- 2) identify different types of essays and make correct writing decisions related to punctuation, diction, sentence and paragraph structure, and essay organization.
- 3) find and correct common grammatical and mechanical mistakes in writing.
- 4) write an effective self-introductory paragraph, a descriptive essay, a narrative essay, and a process essay.

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Semester I Course Introduction; the Writing Process; Plagiarism
- 2) Page Layout Rules and Word Processing; Writing Email
- 3) Capitalization Rules; Parts of a Paragraph; Introduction to Assignment 1
- 4) Basic Sentence Structure; Revision (Proofreading and Editing)
- 5) Parts of an Essay; Introduction Paragraph; Attention Getters
- 6) Thesis Statements; Introduction to Assignment 2; Essay Model Analysis
- 7) Parallelism; Conclusion Paragraph; Colons and Semicolons
- 8) Writing Workshop for Assignment 2
- 9) Introduction to Assignment 3; Essay Model Analysis
- 10) Hyphens and Dashes; Cohesion
- 11) Writing Workshop for Assignment 3
- 12) Writing about a Process; Introduction to Assignment 4; Essay Model Analysis
- 13) Process Writing (continued); Audience and Tone
- 14) Writing Workshop for Assignment 3; Test Preview/Course Review and Evaluation
- 15) Semester I Test

5. 成績評価方法：The final grade will be determined by: (1) class work, homework, and class attendance; (2) writing assignments, and (3) a semester test.

6. 教科書および参考書：Reference materials and practical activities will be provided on a weekly basis in printed and/or digital form. All assignments and class prints, furthermore, should be saved and carefully stored in a notebook.

7. 授業時間外学習：There is a lot of homework in this course, especially in completing writing assignments according to strict-yet reasonable-deadlines. Because most of the learning is based on actually doing and redoing a series of tasks, success in this course depends on

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

Class attendance is expected at all times. Absences will adversely affect your grade in this course.
In principle, no auditors will be accepted.

科目名：英語研究論文作成法Ⅱ

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：STEPHEN HALE

コード：LM23301, 科目ナンバリング：LAL-OAR515E, 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Advanced Academic Writing in English II

2・授業の目的と概要：Advanced Academic Writing in English II is a continuation of Advanced Academic in English Writing I (AAWEI) from the spring semester; therefore successful completion of AAWEI is prerequisite for taking this course. Using the fundamental skills of academic

3. 学習の到達目標：As a result of taking this course, students will be able to:

- 1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for research papers in English.
- 2) identify and evaluate potential resources of information.
- 3) select a topic, then systematically conduct original research, and write a fully documented research paper.
- 4) summarize the thesis and contents of the research paper in an abstract and PowerPoint or video presentation.

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Semester II Course Introduction; the Research Process
- 2) Choosing a Topic; Identifying Potential Resources; Working Bibliography
- 3) Gathering and Evaluating Source Materials
- 4) Paragraph Organization and Note-Taking
- 5) Note-Taking (continued); Quotations and Paraphrasing
- 6) Capitalization, Italics, and Quotation Marks
- 7) Model Analysis; Writing an Outline
- 8) Writing Workshop 1
- 9) Writing the First Draft; Citing Sources; Avoiding Plagiarism
- 10) Writing Workshop 2
- 11) Works Cited List; Layout for Final Draft; Evaluation Rubric
- 12) Writing Workshop 3
- 13) Abstract Writing; Presentation of Research
- 14) Research Presentations; Test Preview/Course Review and Evaluation
- 15) Semester II Test

5. 成績評価方法：The final grade will be determined by: (1) class work, homework, and class attendance; (2) research paper and abstract; (3) research presentation; and (4) semester test.

6. 教科書および参考書：Reference materials and practical activities will be provided on a weekly basis in printed and/or digital form. All assignments and class prints, furthermore, should be saved and carefully stored in a notebook.

Note that the Style Guide of the Modern La

7. 授業時間外学習：There is a lot of homework in this course, especially in completing the various research steps according to strict-yet reasonable-deadlines. Because most of the learning is based on actually doing a series of tasks, success in this course depends on consi

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

Class attendance is expected at all times. Absences will adversely affect your grade in this course.

In principle, no auditors will be accepted.

科目名：日本語研究論文作成法Ⅰ

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LM12201, **科目ナンバリング：**LAL-0AR516J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アカデミックライティングの基礎

2・授業の目的と概要：この授業の目的は、大学や大学院の学習に必要なレポートや論文を正確に、わかりやすく書けるようになることです。そのために、日本語で文章を書くときに必要な基礎的な知識、文法、表現などを学びます。また、ペアやグループで相互にコメントし、レポートをよりよくする方法も学びます。

- 3. 学習の到達目標：**1 文章を書くときに必要な表現やスキルを身に着ける
2 読み手にわかりやすく書く力をつける

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 自己紹介文を書く
3. 自分の研究を紹介する
4. 書き言葉のルール
5. 過程を説明する
6. 定義を説明する①
7. 定義を説明する②
8. 分類・例示を説明する①
9. 分類・例示を説明する②
10. 比較・対照を説明する①
11. 比較・対照を説明する②
12. 原因・結果を説明する①
13. 原因・結果を説明する②
14. 全体のまとめ①
15. 全体のまとめ②

5. 成績評価方法：宿題 50%、出席及び受講態度 40%、最終レポート 10%

以上の割合で、総合的に判定する

6. 教科書および参考書：教科書はありません。授業のときに配布します。

参考書は『Good Writing へのパスポート』（くろしお出版）、『レポート・論文を書くための日本語文法』（くろしお出版）など

7. 授業時間外学習：ほぼ毎週、作文の宿題があります。授業では、宿題で書いてきた作文をペアやグループで読み合います。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語研究論文作成法Ⅱ

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LM22201, 科目ナンバリング：LAL-0AR517J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アカデミックライティングの書き方

2・授業の目的と概要：この授業の目的は、大学や大学院の学習に必要なレポートや論文を作成する手順にそって、レポートを完成させるまでのプロセスを学ぶことです。そのために、テーマの調べ方や資料の調べ方、文章の構成の仕方、引用の方法などを学びます。また、ペアやグループで相互にコメントし、レポートをよりよくする方法も学びます。

3. 学習の到達目標：1 文章を書くときに必要な表現やスキルを身に着ける

2 読み手にわかりやすく書く力をつける

3 レポートや論文を作成する方法を身に着ける

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション

2. テーマを見つけよう・調べよう

3. 資料の探し方を知ろう

4. 資料を整理しよう・話し合おう

5. 資料を読んで整理しよう

6. テーマの絞り込みと定義の重要性を学ぼう

7. 定義の書き方を考えよう

8. 筆者の意図と構成を考えよう

9. タイトル・アウトラインを作成しよう

10. 引用方法や参考文献の書き方を学ぼう

11. レポートを書くときの表現を学ぼう

12. レポートを作成する前に確認しよう

13. ともだちのレポートを読んでフィードバックをしよう

14. フィードバックを読んで、よりよい文章に直そう

15. 自分のレポートを読んで、自分の成長をまとめよう

5. 成績評価方法：宿題 50%、出席及び受講態度 40%、最終レポート 10%

以上の割合で、総合的に判定する

6. 教科書および参考書：教科書はありません。授業のときに配布します。

参考書は『あしか：アイデアをもって社会について考える（レポート・論文編）』（ココ出版）、『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』（ひつじ書房）など

7. 授業時間外学習：ほぼ毎週、作文の宿題があります。授業では、宿題で書いてきた作文をペアやグループで読み合います。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語理解表現スキルⅠ

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小河原 義朗

コード：LM12501, **科目ナンバリング：**LAL-0AR525J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：読解力と口頭表現能力の改善

2・授業の目的と概要：読解活動は、読んだことから内容を再構築する過程です。そこでこの授業の目的は、あるまとまった文章を読んで理解したことを相手に話すことによって、読む力と話す力を伸ばします。そのため、授業では、ペアになって、読んだ内容を相手に伝えるという目的で読み、相手に話す活動を繰り返し行います。

3. 学習の到達目標： 1 数文レベルから 600 字程度までのまとまった文章を読んで理解できる
2 理解した内容を相手に適切に伝えることができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 再話活動(1)
3. 再話活動(2)
4. 再話活動(3)
5. 再話活動(4)
6. 再話活動(5)
7. 再話活動(6)
8. 中間テスト
9. 再話活動(7)
10. 再話活動(8)
11. 再話活動(9)
12. 再話活動(10)
13. 再話活動(11)
14. 再話活動(12)
15. 期末テスト

5. 成績評価方法：課題 25%、クイズ 25%、中間テスト 25%、期末テスト 25%
以上の割合で、総合的に判定する

6. 教科書および参考書：教科書はありません。授業のときに指示します。
参考書は『初中級からの読解』（凡人社）、『新わくわく文法リスニング 100』（凡人社）など

7. 授業時間外学習：毎回、課題とクイズがあります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語理解表現スキルⅡ

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小河原 義朗

コード：LM22501, **科目ナンバリング：**LAL-0AR526J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：読解力と口頭表現能力の改善

2・授業の目的と概要：読解活動は、読んだことから内容を再構築する過程です。そこでこの授業の目的は、あるまとまった文章を読んで理解したことを相手に話すことによって、読む力と話す力を伸ばします。そのため、授業では、ペアになって、読んだ内容を相手に伝えるという目的で読み、相手に話す活動を繰り返し行います。

3. 学習の到達目標： 1 数文レベルから 600 字程度までのまとまった文章を読んで理解できる
2 理解した内容を相手に適切に伝えることができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 再話活動(1)
3. 再話活動(2)
4. 再話活動(3)
5. 再話活動(4)
6. 再話活動(5)
7. 再話活動(6)
8. 中間テスト
9. 再話活動(7)
10. 再話活動(8)
11. 再話活動(9)
12. 再話活動(10)
13. 再話活動(11)
14. 再話活動(12)
15. 期末テスト

5. 成績評価方法：課題 25%、クイズ 25%、中間テスト 25%、期末テスト 25%
以上の割合で、総合的に判定する

6. 教科書および参考書：教科書はありません。授業のときに指示します。
参考書は『初中級からの読解』（凡人社）、『新わくわく文法リスニング 100』（凡人社）など

7. 授業時間外学習：毎回、課題とクイズがあります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語口頭表現スキルⅠ

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：島崎 薫

コード：LM13201, **科目ナンバリング：**LAL-0AR533J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語でやりとりする力を伸ばす

2・授業の目的と概要：道聞きや依頼など目的がある会話はできても、日常生活のさまざまなところで交わされる雑談が難しいと感じる日本語学習者は多い。この授業では、互いのことや経験、気持ちや思いを共有することで、互いを知り合い、尊重し合いながら関係性を築き上げられるような雑談ややりとりができることを目指す。

3. 学習の到達目標：①関係性の深まりや変化に合わせて、話題や使用する語彙・表現を使い分けられる

②雑談に必要なストラテジーやコツを理解し、使用することができる

③話題や場面に合った適切な話の展開の仕方を理解し、適切に話を発展させることができる

④自分のパフォーマンスについて客観的に振り返り、モニターすることができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 初対面での会話①
3. 初対面での会話②
4. 雑談の始め方、終わり方
5. 親しくなるきっかけをつくるための雑談①
6. 親しくなるきっかけをつくるための雑談②
7. 親しくなるきっかけをつくるための雑談③
8. 大学生が使う雑談のことば
9. もっと親しくなるための雑談①
10. もっと親しくなるための雑談②
11. 仲を深めるための雑談①
12. 仲を深めるための雑談②
13. もっと仲を深めるための雑談①
14. もっと仲を深めるための雑談②
15. まとめ

5. 成績評価方法：毎週の課題 50%

期末テスト（パフォーマンステスト） 50%

6. 教科書および参考書：特になし。担当教員作成 PPT 資料、配布資料を使用する。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

この授業は日本語中上級レベル以上留学生向けの日本語の授業です。

科目名：日本語口頭表現スキルⅡ

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：島崎 薫

コード：LM23201, **科目ナンバリング：**LAL-0AR534J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：プレゼンテーションスキルを伸ばす

2・授業の目的と概要：この授業では、留学生が研究に関する報告や口頭発表を行う際に必要になる基礎的な知識やことば、表現、考え方を学びます。また口頭発表の方法だけではなく、発表スライドや質疑応答についても取り扱います。

3. 学習の到達目標：①口頭発表の流れを理解し、自分の研究についてわかりやすく発表することができる
②聴衆にとってわかりやすい発表スライドを作成することができる
③適切に質問やコメントを受け、回答することができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 プレゼンテーションとは
- 2 研究紹介①
- 3 研究紹介②
- 4 研究発表③
- 5 研究発表④
- 6 研究発表⑤
- 7 研究発表⑥
- 8 研究発表⑦
- 9 発表スライド①
- 10 発表スライド②
- 11 質疑応答①
- 12 質疑応答②
- 13 質疑応答③
- 14 最終発表①
- 15 最終発表②

5. 成績評価方法：毎週の課題 50%

最終課題（プレゼンテーション）50%

6. 教科書および参考書：特になし。担当教員作成 PPT 資料、配布資料を使用する。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

この授業は日本語中上級レベル以上留学生向けの日本語の授業です。

科目名：日本語・日本文化論特論 I

曜日・講時：木曜 4 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LM14401, **科目ナンバリング：**LAL-0AR518J, **使用言語：**使用言語は英語です（日本語での説明も可）

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Japanese Popular and Consumer Culture from Edo to the 1930s

2・授業の目的と概要：本授業は江戸時代初期から 2000 年代までの期間に焦点を絞り、日本のポピュラー・カルチャーの進展を辿っている。日本における創造生産の特徴、人気のあるコンテンツの種類及び典型的な消費パターンを紹介し、それを形成した要素を学生に考察させる。それによって日本のポピュラー・カルチャーの概要だけでなく、大衆文化の根本的な原理の理解が成立することが期待される。さらに、皆さんが講義と課題によって日本のポピュラー・カルチャーをめぐる研究と接触し、これから自分の研究において活用できる観点や考え方を見つけたらありがたいと思う。

3. 学習の到達目標：——江戸時代初期から 2000 年代にかけての日本の大衆文化の全貌を把握する。
——各々のメディア、ジャンル、また創造産業の登場と展開を裏付ける歴史的状況、技術、そして社会の相互作用を理解する。
——日本におけるメディアや消費活動などの特徴についての知識を活用し、世界中の大衆文化における傾向、また消費者と生産者の関係などを分析できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Course introduction; defining popular culture
 2. Proto-popular culture in the Edo period I: Regular folk's entertainment
 3. Proto-popular culture in the Edo period II: Performing arts 1
 4. Proto-popular culture in the Edo period III: Performing arts 2
 5. Proto-popular culture in the Edo period IV: Literacy + the blessing of woodblock printing
 6. Proto-popular culture in the Edo period IV: Woodblock prints
 7. Animated movie screening: Miss Hokusai (2015)
 8. Proto-popular culture in the Edo period IV: Traveling for business and pleasure
 9. Taishō period I: Urbanization, westernization, new consumer culture
 10. Taishō period II: From stage to screen
 11. Taishō period III: Shōjo culture, and Takarazuka Revue
 12. From Taishō to Shōwa: Kamishibai
 13. Popular culture and the supernatural I: From folk beliefs to entertainment
 14. Popular culture and the supernatural II: from documented folklore to urban legends
 15. Animated TV series screening: Mushishi (2005-06, 2014), Yamishibai (2013-)
- (講義構成は変更することがあります)
(the lecture content may be subject to change)

5. 成績評価方法：成績評価は、次の方法と割合で行う：

出席 (20%)

課題 (80%)：テキストに基づく課題 50% + リアクションペーパー30%

課題は重要！

課題

出席=1、遠隔での参加（特別の理由がない限り）=0.5

6. 教科書および参考書：No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

7. 授業時間外学習：1 週間に 3 時間程度の準備学習（予習・復習等）が必要となる。

復習① (1 時間程度)：ビデオ上映の後、リアクション・ペーパーを作成し提出すること

復習② (2-5 時間程度)：論文や一次資料に基づく課題

復習③ (1 時間程度)：講義の後、スライドを再確認すること

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

If you have any questions regarding the course, feel free to contact me via the following email:

kopylova.olga.d4@tohoku.ac.jp

You can also find me in my office (building C13, 827) on Mon. ~Fri. 8:30 am-17.30 pm.

私の主な連絡先：

kopylova.olga.d4@tohoku.ac.jp

科目名：日本語・日本文化論特論Ⅱ

曜日・講時：木曜 4 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LM24401, **科目ナンバリング：**LAL-0AR519J, **使用言語：**使用言語は英語です（日本語での説明も可）

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Japanese Popular and Consumer Culture from WWII to the late 20th Century

2・授業の目的と概要：本授業は江戸時代初期から 2000 年代までの期間に焦点を絞り、日本のポピュラー・カルチャーの進展を辿っている。日本における創造生産の特徴、人気のあるコンテンツの種類及び典型的な消費パターンを紹介し、それを形成した要素を学生に考察させる。それによって日本のポピュラー・カルチャーの概要だけでなく、大衆文化の根本的な原理の理解が成立することが期待される。さらに、皆さんが講義と課題によって日本のポピュラー・カルチャーをめぐる研究と接触し、これから自分の研究において活用できる観点や考え方を見つけたらありがたいと思う。

3. 学習の到達目標：——江戸時代初期から 2000 年代にかけての日本の大衆文化の全貌を把握する。
——各々のメディア、ジャンル、また創造産業の登場と展開を裏付ける歴史的状況、技術、そして社会の相互作用を理解する。
——日本におけるメディアや消費活動などの特徴についての知識を活用し、世界中の大衆文化における傾向、また消費者と生産者の関係などを分析できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Course introduction; defining popular culture
 2. WWII: Life and entertainment during the war, censorship, and propaganda
 3. WWII aftermath: Japan during and after the occupation (reading assignment 1)
 4. Animated movie screening: In This Corner of the World (2016) (reaction paper)
 5. TV Era: The impact of TV on other media
 6. Postwar anime: The legacy of Tetsuwan no Atomu (Astroboy) (reading assignment 2)
 7. Special effects on screen: Kaijū movies and tokusatsu
 8. Movie screening: Godzilla (1954) 96 min. (reaction paper)
 9. The affluent 70s: The arrival of kawaii culture (creative assignment)
 10. Social, political, ecological crises reflected in popular media
 11. Animated TV series screening: Tokyo Magnitude 8.0 (2009) (reaction paper)
 12. Opening the mountains: Hiking and mountain-climbing booms in Japan
 13. Early history of game centers and video games in Japan
 14. Mass media, press, and scandal in Japan (reading assignment 5)
 15. Movie screening: シン・ゴジラ (2016) – till prime minister's death (reaction paper)
- (講義構成は変更することがあります)
(the lecture content may be subject to change)

5. 成績評価方法：成績評価は、次の方法と割合で行う：

出席 (20%)

課題 (80%)：テキストに基づく課題 40% + リアクションペーパー40%

課題は重要！

出席=1、遠隔での参加（特別の理由がない限り）=0.5

6. 教科書および参考書：No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

7. 授業時間外学習：1 週間に 3 時間程度の準備学習（予習・復習等）が必要となる。

復習①（1 時間程度）：ビデオ上映の後、リアクション・ペーパーを作成し提出すること

復習②（2-5 時間程度）：論文や一次資料に基づく課題

復習③（1 時間程度）：講義の後、スライドを再確認すること

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

If you have any questions regarding the course, feel free to contact me via the following email:

kopylova.olga.d4@tohoku.ac.jp

You can also find me in my office (building C13, 827) on Mon.~Fri. 8:30 am-17.30 pm.

私の主な連絡先：

kopylova.olga.d4@tohoku.ac.jp

科目名：キャリア設計演習

曜日・講時：木曜 3 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：猪股 歳之

コード：LM24301, **科目ナンバリング：**LAL-0AR521J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：キャリア・イメージを作る

2・授業の目的と概要：この授業では、文学部学生が、日本の経済構造や労働法制といった基本事項について理解を深めるとともに、実際の「働く」現場のあり様について具体的なイメージを持ち、自らの将来のキャリアを主体的にプランニングしていけるよう、キャリア支援センターと共同して実践的な教育指導を行います。取得単位はスキル科目として修了単位にカウントされます（学生便覧で確認のこと）。

3. 学習の到達目標：職業生活についての具体的なイメージを得て、自らのキャリアについて主体的に構想していけるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 日本経済の基本構造について (1)
3. 日本経済の基本構造について (2)
4. ビジネス全般について (1)
5. ビジネス全般について (2)
6. ビジネス全般について (3)
7. 公務員
8. 労働法
9. 二十歳のハローワーク（様々な職種で活躍する先輩等による就職講演会）
10. 業界・仕事研究セミナー (1)
11. 業界・仕事研究セミナー (2)
12. 業界・仕事研究セミナー (3)
13. 自己分析と就職活動 (1)
14. 自己分析と就職活動 (2)
15. まとめ

5. 成績評価方法：授業と指定されたセミナー等への参加およびその報告の提出（100％）。

6. 教科書および参考書：特になし。必要な資料は授業時に配付する。

7. 授業時間外学習：授業中に指示された課題の準備。日常的にニュースやインターネット等を通じて経済情報に目配りすること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

○

9. その他：

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業

科目名：アーカイブズ学研究演習

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：加藤 諭

コード：LM14201, **科目ナンバリング：**LAL-0AR532J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アーカイブズ学研究法

2・授業の目的と概要：本講義は、実際にアーカイブズ機関において必要とされるアーキビストの業務について、ディスカッションや実践を通じて体得する授業である。アーカイブズ機関の現場で求められるアーキビストの使命・倫理、資料保存に関する技術、公文書の保存・修復・利用に関する知識、専門的な知識やマネジメント、職務上必要なスキルやマネジメント能力について、理解を深めることを目的とする。

3. 学習の到達目標：本講義は、現場のアーキビストとのディスカッションや、マネジメントに関する演習等をおこない、アーカイブズ機関において必要とされるアーキビストの知識・技能を体得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. アーキビストの使命と役割
3. 国立大学法人における文書管理と連携
4. 大学アーカイブズにおける保存・修復・利用
5. 大学アーカイブズにおける MLA 連携とアウトリーチ活動
6. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践①
7. 自治体アーカイブズにおける業務と実践①
8. 自治体アーカイブズにおける業務と実践②
9. 民間アーカイブズにおける業務と実践
10. 自治体アーカイブズにおける業務と実践③
11. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践②
12. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践③
13. 東北大学史料館における記録資料の整理公開①
14. 東北大学史料館における記録資料の整理公開②
15. まとめ

5. 成績評価方法：出席[50%]・受講態度[40%]・レポート[10%]

6. 教科書および参考書：エリザベス・シェパード、ジェフリー・ヨー（共著）、森本祥子、平野泉、松崎裕子（編・訳）『レコード・マネジメント・ハンドブック：記録管理・アーカイブズ管理のための』日外アソシエーツ、2016 年、スー・マケミッシュ、マイケル・ピゴット、バーバラ・リード、フランク・アップウォード（共編）、安藤正人、石原一則、坂口貴弘、塚田治郎、保坂裕興（訳）『アーカイブズ論：記録のちからと現代社会』明石書店、2019 年

7. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

科目名：アーカイブズ学特論

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：加藤 諭

コード：LM24201, 科目ナンバリング：LJS-HIS629J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：歴史研究とアーカイブズ学

2・授業の目的と概要：本講義では、主としてアーキビストとして必要な知識を習得し、アーカイブズ学の概要を理解することを目的とする。アーカイブズの成り立ちや役割について国内外の事例から理解を深めるとともに、その保存・管理システムを構築するための学問分野であるアーカイブズ学の理論と体系について学び、様々なアーカイブズのあり方について考察する。またアーカイブズの実務に必要な、評価選別、目録編成、利用審査、利用普及活動などに関する具体的な方法論について知見を深める。その上で、記録の収集、保存、整理公開、利活用の流れを総合的に理解し、

3. 学習の到達目標：アーカイブズ学の理論と体系について学び、記録の収集、保存、整理公開、利活用のあり方について理解することを目的とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス 進め方と目的、評価方法についての説明
2. アーカイブズの理論と原則
3. レコード・マネジメントとアーカイブズ
4. アーキビストの倫理と役割
5. 世界のアーカイブズと歴史
6. 日本のアーカイブズ①（公文書館）
7. 日本のアーカイブズ②（民間アーカイブズ）
8. 日本のアーカイブズ③（大学アーカイブズ）
9. 公文書管理と法制度
10. アーカイブズの技法（評価選別）
11. アーカイブズの技法（目録編成）
12. アーカイブズの技法（利用審査）
13. アーカイブズの現状と課題（利用普及と人材育成）
14. 東北大学史料館見学
15. まとめ

5. 成績評価方法：出席（80％）・レポート（20％）

6. 教科書および参考書：レジュメ随時配布

7. 授業時間外学習：配付されたレジュメを復習すること。レポートを作成すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：デジタルアーカイブ特論

曜日・講時：木曜 4 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：田村 光平

コード：LM24402, **科目ナンバリング：**LAL-0AR523J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：デジタルアーカイブの基礎と活用

2・授業の目的と概要：情報技術は、記録の保全・継承・活用等に関する諸課題の解決に大きく貢献することが期待されている。前半は、デジタルアーカイブの基礎的な紹介をするとともに、なぜ今デジタル・アーカイブが注目されているのか、さまざまな社会的課題と関連づけて紹介する。後半は、デジタルアーカイブに関する技術の基礎を紹介し、デジタルアーカイブの構築・運用のための知識を習得するとともに、実際のデジタルアーカイブ構築を経験する。

3. 学習の到達目標：デジタルアーカイブの意義や課題を、情報技術に関わる社会的な諸課題と結びつけて理解する。デジタルアーカイブ構築を経験する。

4. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. ガイダンス・デジタルアーカイブとはなにか
2. デジタルアーカイブの多様性
3. デジタルアーカイブへの期待
4. デジタルアーカイブによる保管と継承
5. デジタルアーカイブによるアクセスの拡大
6. デジタルアーカイブのためのデータ構築：3次元計測の実習
7. デジタルアーカイブの活用1：研究とデジタル・ヒューマニティーズ概論
8. デジタルアーカイブの活用2：教育・アウトリーチ
9. 中間まとめ
10. 技術的な話題1：情報リテラシーの基礎
11. 技術的な話題2：サーバー、データベース、メタデータ
12. 技術的な話題3：TEIとIIIF
13. 技術的な話題4：TEIとIIIFの実例
14. 実習：デジタルアーカイブの構築
15. 最終まとめ

5. 成績評価方法：受講態度 [20%]、レポート [40%]、演習の成果物 [40%]

6. 教科書および参考書：以下を参考書として挙げる。

柳与志夫（責任編集）『入門 デジタルアーカイブ』（勉誠出版）

後藤真・橋本雄太（編）『歴史情報学の教科書』（文学通信）

7. 授業時間外学習：授業前に読んでおくべき資料を提示することがある。中間まとめ時にレポート、最終まとめ時にデジタルアーカイブの提出を求めるため、授業時間外に作成する必要がある。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

後半はPCの持参が必要な回がある。個人用のPCを持っていない場合は、初回のガイダンス時に相談すること。